

## 大島の消防団員がPTSD 災害救助で遺体対面

伊豆大島(東京都大島町)の土石流災害で救助活動をした男性消防団員1人が、フラッシュバックや不眠などの症状を訴え、心的外傷後ストレス障害(PTSD)と診断されていたことが11日、町への取材で分かった。

災害や事故の悲惨な現場で働く自衛官、警察、消防の救助隊員らが、不眠やいらいらといった症状を示す「惨事ストレス」は、阪神大震災をきっかけに注目されるようになった。症状が1カ月以上続くとPTSDと診断される。今回の災害で具体的なケースが明らかになるのは初めて。

町は総務省消防庁に専門家チームの派遣を要請。消防本部職員と消防団員を対象に、心のケアを必要とする人が他にいないか調べる。町によると、男性は30代で、災害が発生した10月16日から11月1日まで休まずに行方不明者を搜索した。